

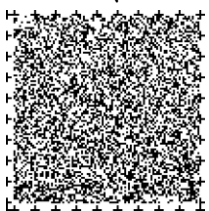
東日本大震災

高 二

私は、東日本大震災が起こってしまったことは、仕方のないことだと受け止めています。私たち人間は、どうしても天災を防ぐことはできません。今回の地震は、千年に一度と言われるほどの大きなものでした。その後に来た津波がさらに被害を拡大させました。数十メートルの高さの津波は、防波堤を軽々と越えてしまいました。多くの方々が家を流され、行方不明となり、亡くなりました。天災は仕方がないと割り切らなければならぬでしょう。しかし、原発事故はそうは言えません。私たち人間が引き起こしてしまったと言っても過言ではないからです。事故後、想定外だったとニュースでは言っていました。それで済まされないのが、今回起きた原発事故です。最悪の事態を想定しないで、いったいどうやって国民は安心して生活を送ることができるのでしょうか。放射線など、様々な問題が浮上していますが、解

決する兆しはあまり見えません。海水汚染のために、水産業に携わっていた人たちが漁に出られなくなり失業しています。土壌汚染のために、農業に携わっていた人たちは農作物を作れなくなっています。福島県やその周囲の県では、農作物の風評被害を受けています。住み慣れた家を追われ、避難生活をいまだに続けている人もいます。放射線の影響をいつも心配し、ストレスを感じながら生活している人もいます。原発事故によって、当たり前の暮らしが、いきなり奪われてしまったのです。このような人たちの生活の事も考えていかなければなりません。復興にはこれが大事なことではないでしょうか。

関東に住んでいる私たちにとっても、これは他人事ではありません。科学者たちは、今後起こるであろう地震と噴火を警告しています。東日本大震災以降、今でも小さな地震が各地で起きています。首都直下地震の起こる可能性も言われています。また、地球上でマグニチュード九以上の地震が起きた所では、数年以内に火山噴火が起きると言われています。今後、



私たちも新たな被災者になるかもしれないのです。つまり、私たちの当たり前の暮らしが、いきなり奪われるかもしれないのです。

これからの日本をどうしていくべきでしょうか。まず急がなければならぬのは、被災者の生活を支え、被災地を復興させることです。早いもので震災から一年数か月が過ぎました。その間、一万二千人もの人が、失業保険の給付が切れたため、貯金を切り崩して生活しています。中には貯金も底をつき、日々の食料もままならない人もいます。それを見てNPO法人が食糧を配給し始めたという報道が、六月にありました。それが国ではなく、NPO法人だということに驚きました。国は何をしているのでしょうか。国は被災者をもっとサポートしてほしいです。それに、自営業の人たちは失業保険がないので、震災後に無収入に陥る人が大勢いたようです。生活の支えを必要としている人たちがたくさん取り残されているのです。この地震大国の日本では、誰もがいつ被災するかわかりません。自分もいつどうなるかわからないと考えれば、いま困っている人を助けることが、一方的

な行為ではないと分かります。被災者の身になって考え、支えるのは、お互い様だと思います。

震災の復興にあたっては問題が山積みです。それを一つずつ解決するのは大変ですが、何年かかっても成し遂げなければいけません。被災者の当たり前の生活を取り戻していくことは、人権を取り戻すことにつながると思っています。

